

大分県長期漁海況予報

〔平成 22(2010)年 9 月～12 月までの海水温・漁模様の見通し〕



大分県農林水産研究指導センター水産研究部

879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦 194-6

Phone0972-32-2155 Fax.0972-32-2156 <http://www.mfs.pref.oita.jp>

海況経過<平成 22 年 4～8 月>

■黒潮

都井岬では 4 月下旬まで接岸し、5 月上旬から 8 月では概ね離岸傾向で推移しました。足摺岬では 4 月から 5 月中旬まで離接岸を繰り返し、5 月下旬から 6 月下旬は離岸し、7 月上旬からは概ね接岸傾向で推移しました。

■水温

豊後水道の水温(0～75m層)は、概ね「平年並み」で推移しました。4月と5月は「平年並み」、6月は「やや高め」、7月と8月は「平年並み」でした。(図2)。

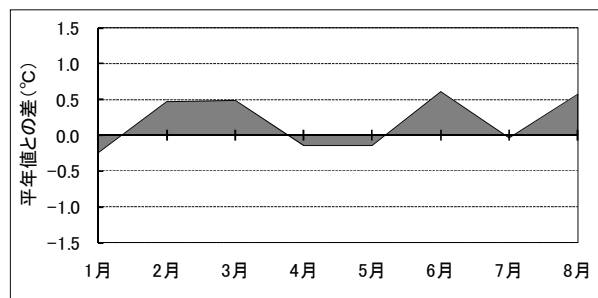


図2 豊後水道における水温の平年値との差(0～75m層の平均値)

■塩分

豊後水道の塩分(0～75m層)は、概ね「平年並み」で推移しました。4月と5月は「やや低め」、6月から8月は「平年並み」でした。(図3)。

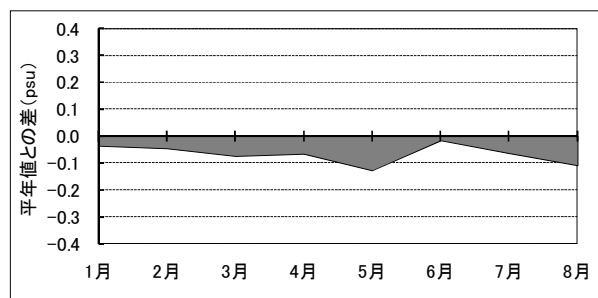


図3 豊後水道における塩分の平年値との差(0～75m層の平均値)

今後の海況の見通し＜平成 22 年 9～12 月＞

■黒潮

黒潮は、9 月は離岸傾向となり、10 月には接岸傾向となりますが、11 月に再び離岸傾向となるでしょう。足摺岬沖では、接岸傾向ですが、都井岬沖の小蛇行が9～10月に四国沖を東進するのに伴い離岸し、その後、接岸傾向となるでしょう。

■沿岸水温

「平年並み」～「高め」で推移するでしょう。

■予測の説明と根拠

・黒潮流路予測は平成 22 年度第 1 回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係府県:2010)に従いました。

・沿岸水温は気温の影響を強く受けると考えられるため、福岡管区気象台の「九州北部地方3ヶ月予報」では、9～11月の平均気温は「平年並み30%、高め50%」と予測していることから、そのように予測しました。

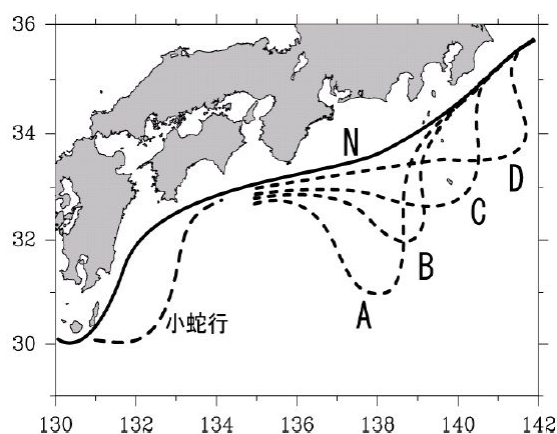


図 4 黒潮流型の分類

※上図は平成 22 年度第 1 回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報(水産庁プレスリリース資料)より引用

■マイワシ

2010年4～7月の漁況経過

2010年4～7月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマイワシの漁獲量は、4月には漁獲はなく、5月に0.004トン、6月に0.4トン、7月には7トンの計7.4トンでした。前年比39%、(用語解説①) 平年比0.1%と、前年及び平年を大きく下回っていました。

漁獲の主体は、7月に佐伯湾で漁獲された被鱗体長(用語解説②)13.0～13.4cmにモード(用語解説③)をもつ0歳魚でした。

なお、(用語解説④) 近隣海域でも不漁となっています。

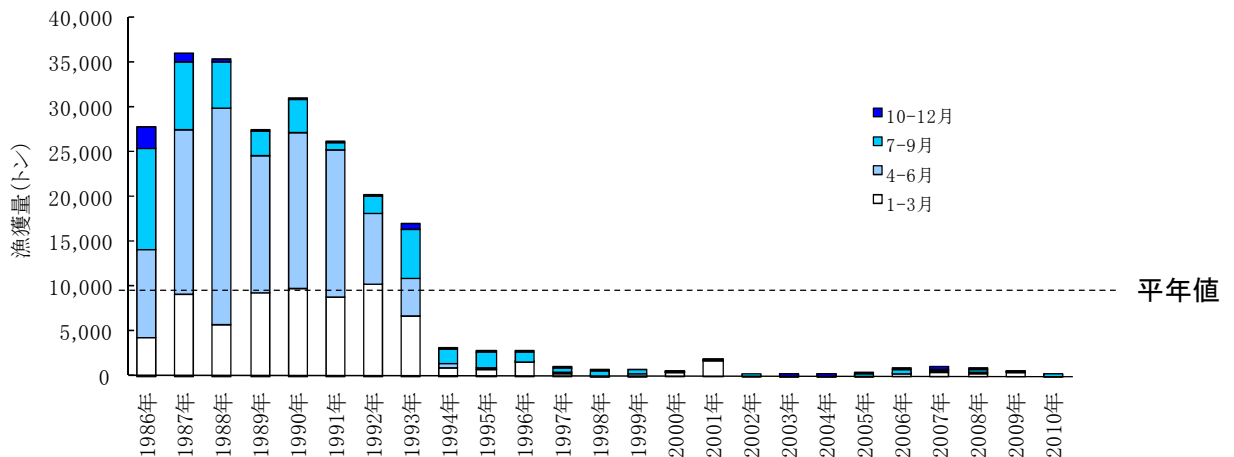


図5 マイワシのまき網における漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成22年9～12月>

来遊水準:

豊後水道への来遊量は依然として低水準で、前年を下回るでしょう。



漁獲対象年級群及び体長:

9～12月は被鱗体長12cm～18cm前後の0歳魚(2010年生まれ)漁獲の主体となるでしょう。

近年の調査結果によれば、9月は漁獲が少ないながら見込めますが、10～12月は漁獲がほとんど望めないでしょう。

【説明】

予測期間中の漁獲主体となる0歳魚(2010年生まれ)の資源水準は、2010年1～6月の日向灘～紀伊水道海域(大海区Ⅲ)におけるマイワシの産卵量が前年を下回ったこと(前年比41%)、本県における4～7月のまき網の漁獲量が前年を下回っていること、近年の佐伯湾内におけるシラス混獲率調査で、マイワシシラスの混獲率がわずかであることから、前年の0歳魚(2009年級群)の資源水準を下回ると考えられます。

以上のことから判断して、来遊水準は前年を下回ると予測しています。

■カタクチイワシ(成魚)

□2010年4～7月の漁況経過

2010年4～7月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるカタクチイワシの漁獲量は、4月に132トン、5月に20トン、6月に556トン、7月に605トンの計1,315トンでした。前年比142%、平年比116%と、前年・平年を上回る好漁となりました。

漁獲の主体は、6～7月が被鱗体長9.0～9.4cmにモードをもつ1歳魚(2009年生まれ)が佐伯湾を主体に豊後水道でも漁獲されていました。

なお、近隣海域でも好漁となっています。

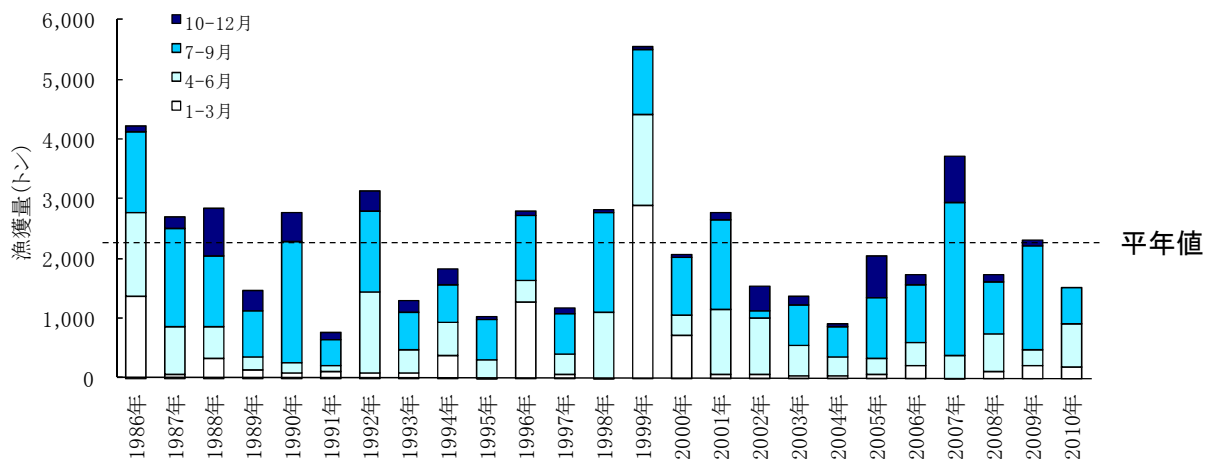


図6 カタクチイワシのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成22年9～12月>

来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年並みか前年を下回るでしょう。



漁獲対象年級群及び体長:

9月は0歳魚(2010年生まれ)と1歳魚(2009年生まれ)が混じり、10～12月は被鱗体長4～9cmの0歳魚(2010年生まれ)が主体となるでしょう。

【説明】

予測期間中の漁獲主体となる0歳魚(2010年生まれ)の資源水準は、2010年1～6月の日向灘～紀伊水道海域(大海区Ⅲ)におけるカタクチイワシの産卵量が前年を下回ったこと(前年比60%)、本県における2010年4～7月のシラス漁が前年・平年と比較して、不漁であることから、0歳魚(2010年生まれ)の資源水準は、前年を下回ると考えられます。なお、1歳魚(2009年生まれ)の資源水準は、去年10月以降の漁況経過からみて、前年並みと考えられます。

以上のことから判断して、来遊水準は前年並みか前年を下回ると予測しています。

なお、カタクチイワシの卵・稚仔の出現状況について、本県沿岸域における2009年1月から2010年7月までの結果を別紙に添付しています。2010年1月から7月までの卵及び仔魚の平均採集量については前年を上回りましたが、平年(2000～2009年)は下回りました。

■ウルメイワシ

□2010年4～7月の漁況経過

2010年4～7月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるウルメイワシの漁獲量は、4月に7トン、5月に0.4トン、6月に28トン、7月に251トンの計287トンでした。前年比34%、平年比79%と、前年・平年を下回る漁となりました。

佐伯湾においては、6月は被鱗体長9.0～9.4cmにモードを持つ0歳魚(2010年生まれ)が、7月は13.0～13.4cmにモードを持つ0歳魚(2010年生まれ)が漁獲の主体となりました。また、豊後水道では21.0～24.0cm程度の1歳魚(2009年生まれ)が主体となりました。

なお、近隣海域では不漁となっています。

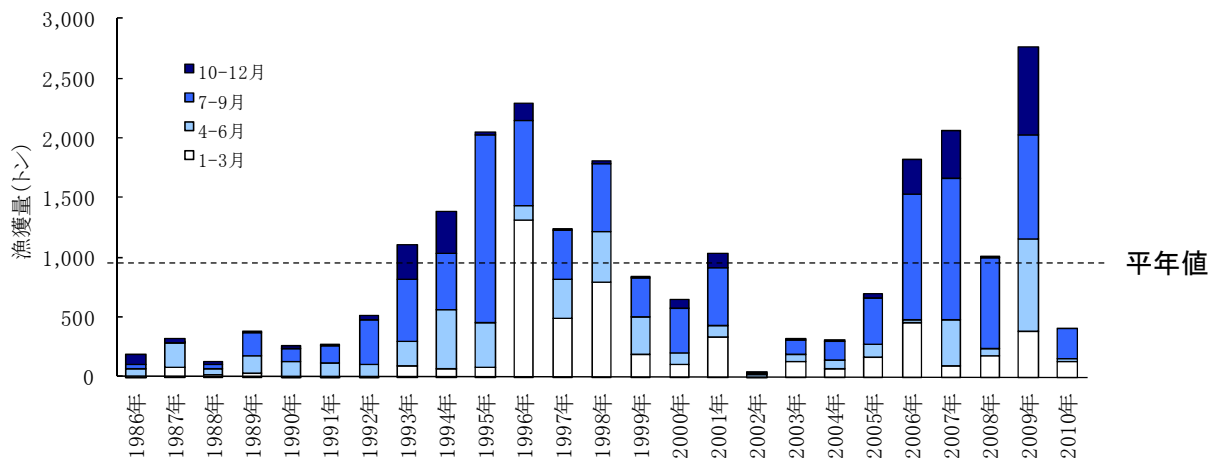


図7 ウルメイワシのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成22年9～12月>

来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年を下回るでしょう。



漁獲対象年級群及び体長、漁期、漁場:

9～12月は被鱗体長7～17cmの0歳魚(2010年生まれ)が漁獲の主体となるでしょう。

【説明】

漁獲の主体となる0歳魚(2010年生まれ)の資源水準は、2010年1～6月の日向灘～紀伊水道海域(大海区Ⅲ)におけるウルメイワシの産卵量が前年をやや上回った(前年比107%)ものの、本県における4～7月の漁獲量(0歳魚主体)が前年を大幅に下回ったことや近隣海域においても不漁となっていることから、資源量が少ないと考えられ、そのため前年の0歳魚を下回ると考えられます。

以上のことから判断して、来遊水準は前年を下回ると予測しています。

■マアジ

□2010年4～7月の漁況経過

2010年4～7月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマアジの漁獲量は、4月に10トン、5月に18トン、6月に12トン、7月に22トンの計62トンでした。前年比18%、平年比6%と、前年・平年を大幅に下回る漁となりました。

6月は尾叉長^(用語解説⑤)18.0～18.4cmにモードをもつ1歳魚(2009年生まれ)が漁獲され、7月は8.0～8.4cmにモードをもつ0歳魚(2010年生まれ)が漁獲されました。海域はいずれも佐伯湾です。

なお、近隣海域でも不漁となっています。

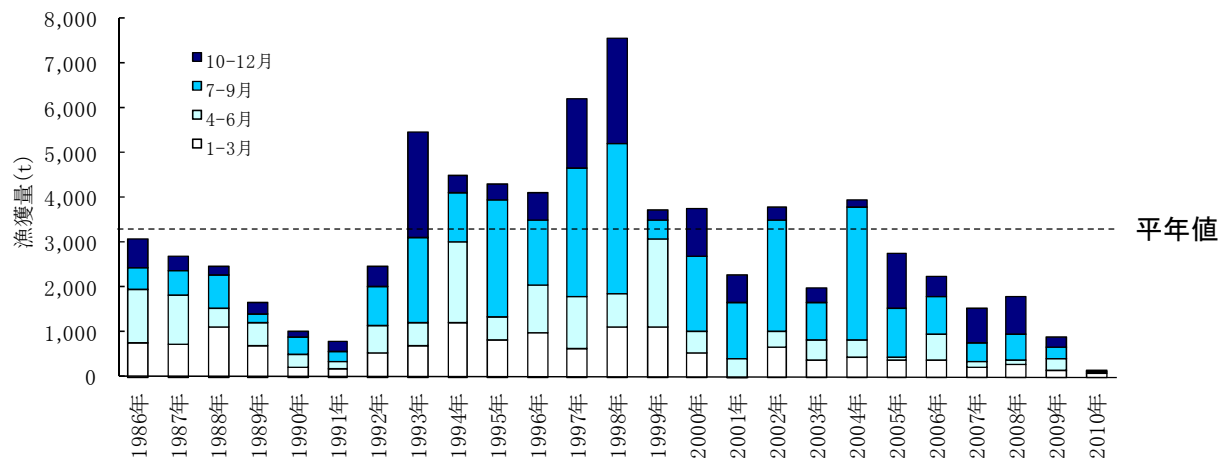


図8 マアジのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成22年9～12月>

来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年を下回るでしょう。



漁獲対象年級群及び体長:

尾叉長8～18cmの0歳魚(2010年生まれ)が漁獲の主体で、1歳魚以上が混じるでしょう。

【説明】

漁獲の主体となる0歳魚(2010年生まれ)の資源水準は、2010年1～6月の日向灘～紀伊水道海域(大海区Ⅲ)におけるマアジ前期仔魚の分布量が前年を下回ったこと(前年比41%)、4～7月の漁獲量(0歳魚)が前年を大幅に下回ったことから、前年を下回ると考えられます。

以上のことから判断して、来遊水準は前年を下回る程度と予測しています。

■サバ類

□2010年4～7月の漁況経過

2010年4～7月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるサバ類の漁獲量は、4月に118トン、5月に1,654トン、6月に1,592トン、7月に778トンの計4,142トンでした。前年比734%、平年比224%と、前年・平年を上回る漁となりました。

佐伯湾においてはマサバが漁獲の主体で、4月から6月にかけて、尾叉長10.0～14cm程度の0歳魚(2010年生まれ)が漁獲され、7月は15～21cmの0歳魚(2010年生まれ)が漁獲されました。また、豊後水道においては、ゴマサバが漁獲の主体で、27～30cmの1歳魚(2009年生まれ)が漁獲されました。

近隣海域でも、ゴマサバ主体に好漁でした。

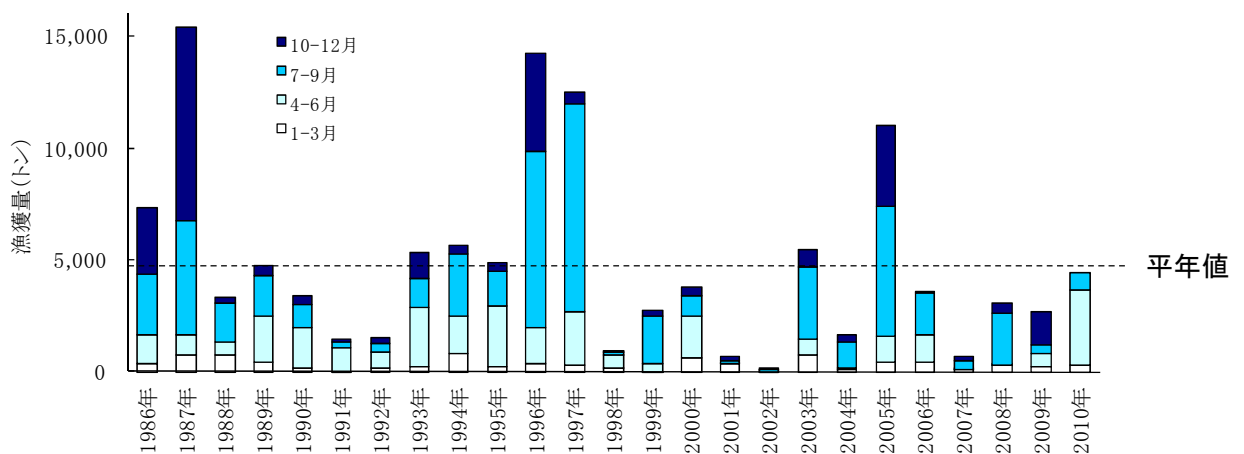


図9 サバ類 (マサバ・ゴマサバ) のまき網における漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成22年9～12月>

来遊水準:

豊後水道への来遊量は、ゴマサバ主体に前年を上回るでしょう。



漁獲対象年級群及び体長:

尾叉長27cm前後のゴマサバの1歳魚(2009年生まれ)が漁獲の主体となり、2歳魚(2008年生まれ)以上が混じる程度となるでしょう。また、尾叉長20～25cmのマサバ0歳魚(2010年生まれ)が混獲される見込みです。

【説明】

予測期間中の漁獲主体となる1歳魚(2009年生まれ)の資源水準は、水産庁と水産総合研究センターが発行する平成21年度版ゴマサバ資源評価票によれば、2009年生まれの加入状況が近年では比較的良好であること、近隣海域でのサバ類の漁獲量が前年を上回る海域が多いこと、併せて、これまでの漁況経過を考慮すると前年を上回ると考えられます。

以上のことから判断して、来遊水準はゴマサバ主体に前年を上回ると予測しています。

その他

■予測の根拠および参考資料

・平成22年度第1回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係府県:2010)

■用語解説

- ①平年比：1986～2009年までの比
- ②被鱗体長：体の前端から、尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。
- ③モード:度数の最も多い数値、階級値。
- ④近隣海域：ここでは、3県（宮崎県・愛媛県・高知県）の海域とする。
- ⑤尾叉長：体の前端から、尾びれの湾入部内縁中央(くびれている部分)までの直線距離。

■問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究指導センター水産研究部 栽培資源チームまで。

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6

電話:0972-32-2155

FAX:0972-32-2156

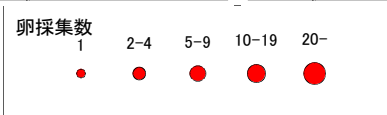
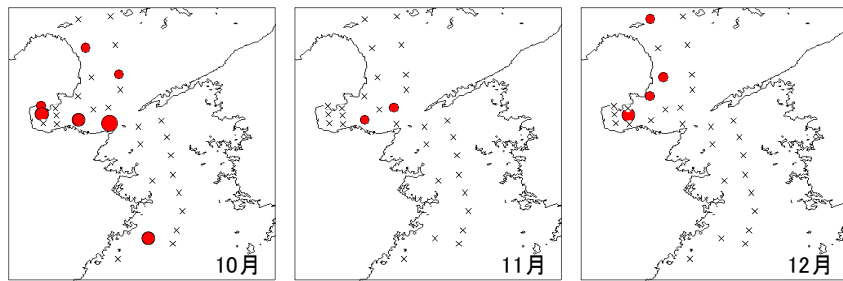
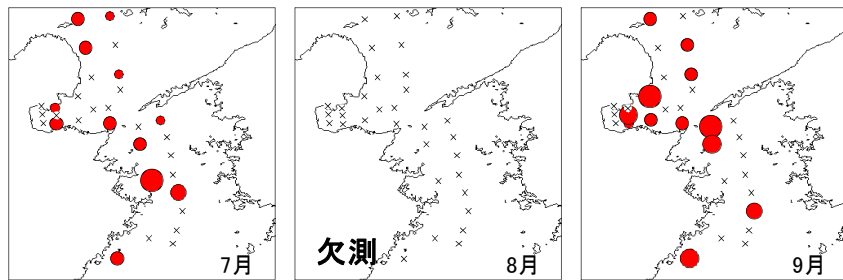
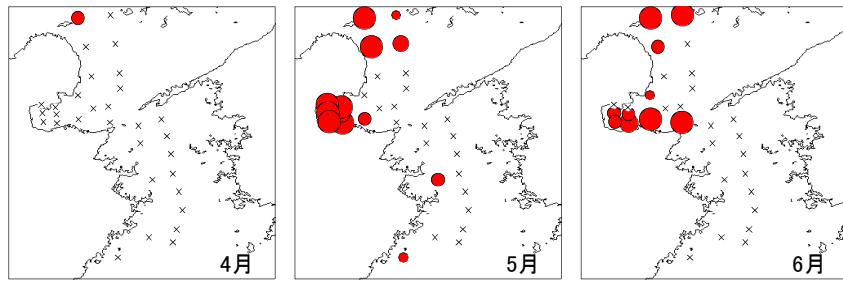
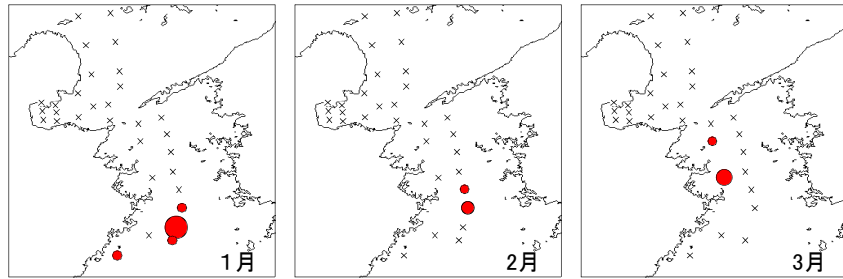


図 カタクチイワシ卵月別採集状況 (2009年)

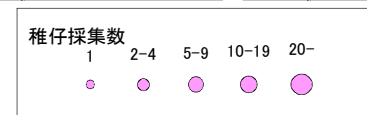
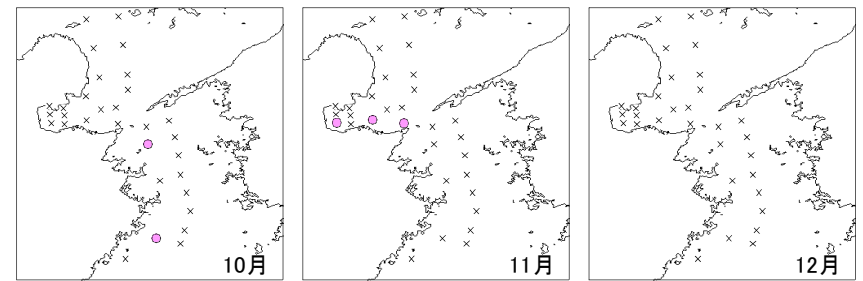
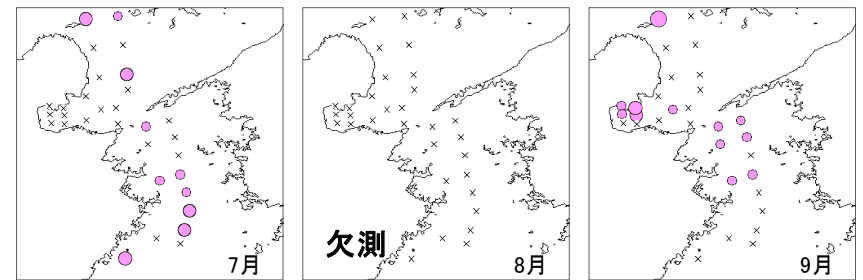
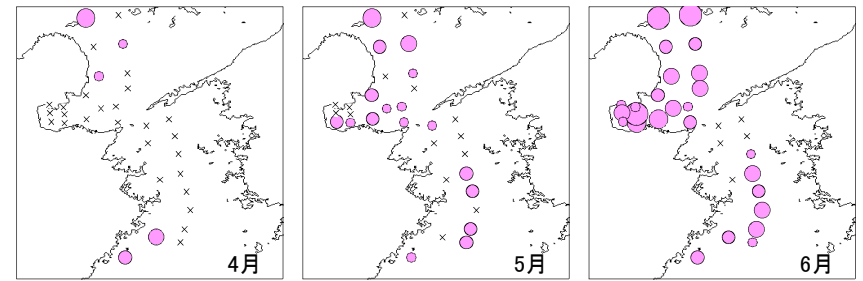
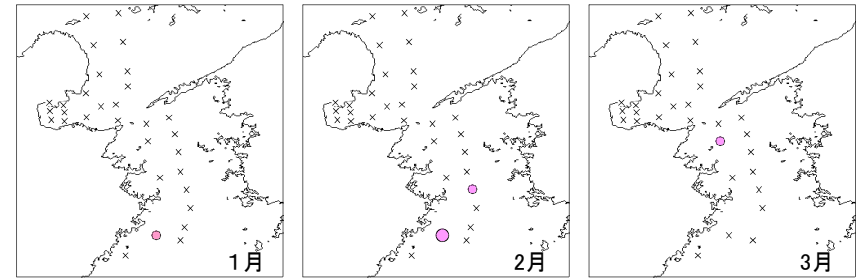


図 カタクチイワシ稚仔月別採集状況 (2009年)

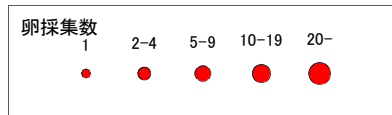
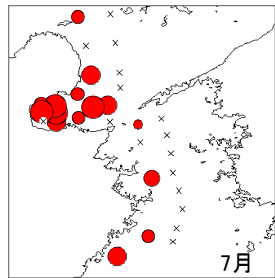
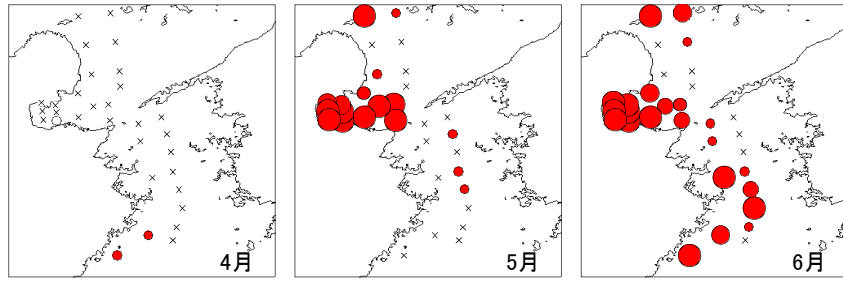
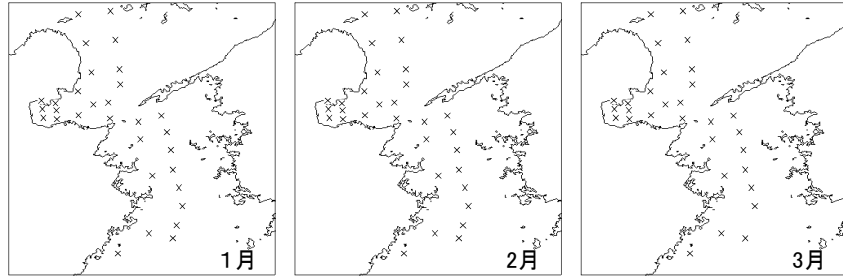


図 カタクチイワシ卵月別採集状況（2010年1-7月）

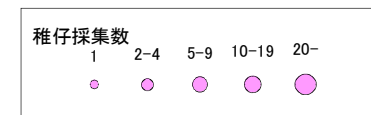
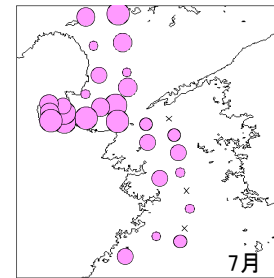
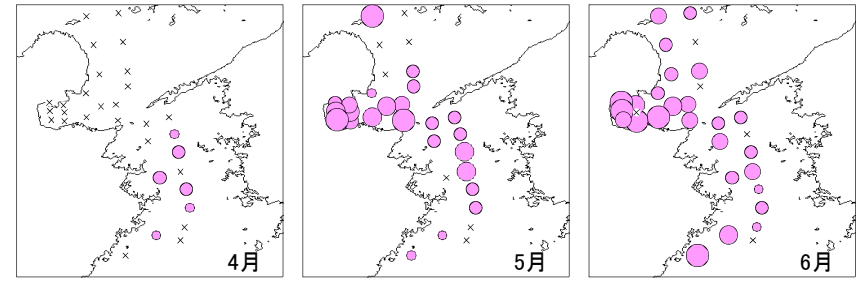
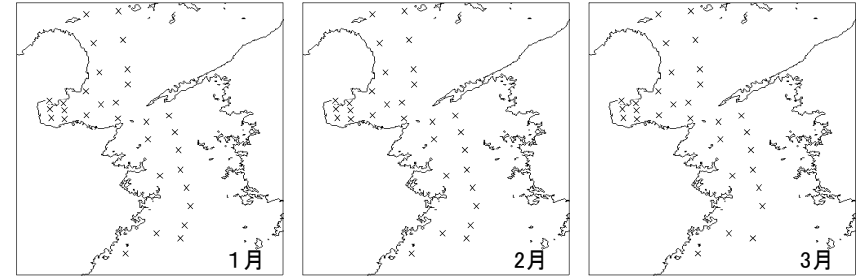


図 カタクチイワシ稚仔月別採集状況（2010年1-7月）